

士幌町の介護予防・日常生活支援総合事業について

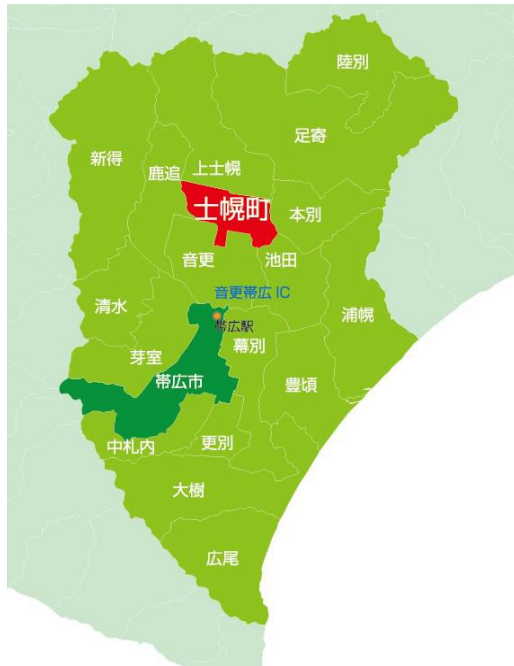


厚生労働省 地域づくり加速化事業を受けて

令和6年3月 士幌町保健福祉課

士幌町について

北海道十勝の北部に位置し、畑作と酪農が主な産業です。総面積の60%が農用地となり、広大な空の下、一面に畑が広がります。



○人口 5,814 人(2,753世帯)
(令和6年1月末現在)

○65歳以上人口 2,022人
(高齢化率 34.7%)

うち75歳以上人口 1,058人
(75歳以上が占める割合 52.3%)

○面積 259.19平方メートル

○日常生活圏域 1つ

○地域包括支援センター 1カ所(直営)

士幌町の介護予防・日常生活総合支援事業

介護予防・生活支援サービス事業

- ・訪問・通所とも従前相当サービスが基本 事業所も1カ所のみ
- ・通所サービスA 従前相当サービスと同じ事業所であり1カ所のみ

一般介護予防事業

- ・まる元運動教室
- ・いきいき筋力向上教室
- ・ふまねっと
- ・アクティブライフフィットネス事業



令和4年度に上限額を超過し個別協議



地域づくり加速化事業（プッシュ型）のお声をかけられる

人手不足、日々の支援で職員は精一杯。でも新しい視点が得られるかもしれない。やってみよう

現地支援では住民の方をお招きしてグループワークも行いました。

地域包括支援センターの職員が、支援が必要だと思う状態は住民の方から見てどう思うか聞いてみました。

住民の方は普段地域の中でどんな助け合いをしながら生活しているのか等、色んなご意見が聞けました。



令和5年度から空き店舗を利用して「みんなのまりのくまさん」という常設型のサロンを開設し、第2層コーディネーターが常駐しています。

住民の方の活動を通して、どんなことを経由して介護予防事業につながっているのか、コーディネーターと共に改めて認識しました。

➡ この場所は自分達が思っている以上に重要な拠点ではないかという気づきを得ました。



一般介護予防事業の整理を行いました。

○土幌町は運動系の予防事業が多く、利用の状態像が重複している。

○人手が不足する中、重複する事業を整理し、専門職の支援は必要な時期に集中できるように絞っていきこう。



	介護相当サービス (社会福祉法人)	サービスA (社会福祉法人)	ALF (社会福祉法人)	まる元花(NPO委託)	まる元星(NPO委託)	まる元空(NPO委託)	ふまねっと	いきいき (おかもと委託)	生涯教育部門トレ	も火ま地区サロンなど
日常生活自立度・チェックリスト	自立～A2 自立～Ⅱ	自立～A2 自立～Ⅱ	自立～A2 自立～Ⅱ	自立～A1 自立～Ⅱ	自立～J2 自立～Ⅱ	自立 自立	自立 自立	自立 自立	自立 自立	自立 (誰でも可)
疾病の安定度	安定	安定	安定	安定	安定	安定	安定	安定	安定	安定
運動制限	有	有	無	無	無	無	無	無	無	無
改善・維持・悪化	維持・改善・悪化	維持・改善・悪化	維持・改善	改善のみこみがある	改善	改善	自立の維持	自立の維持	自立の維持	自立の維持
疾患例・状態像	骨・関節疾患 認知症 脳血管疾患等 パーキンソンなど難病	骨・関節疾患 認知症 脳血管疾患等 パーキンソンなど難病	骨・関節疾患 生活習慣病 認知症 廃用症候群 出かける機会が少ない 徒歩3分なら歩行器で可能	骨・関節疾患 生活習慣病 MCI 廃用症候群 出かける機会が少ない 徒歩5～6分杖歩行ORなし	骨・関節疾患 生活習慣病 MCI 廃用症候群 コミュニティバスに乗れるADL	骨・関節疾患 生活習慣病 廃用症候群 (世代若め)	骨・関節疾患 生活習慣病 廃用症候群 (年齢層が高い)	高血圧等 廃用症候群	廃用症候群	
頻度	週1～2	週1～2	週2	週1(月4回)	週1(月4回)	週1(月4回)	週1(月4回)	2クール(週1回6ヶ月)	月・水・金(常設)	毎日火～土(常設)
送迎の有無	有	有	有	有(遠い方)家族送迎あり	有(遠い方)	無	無	無	無	無
入浴	有	有	無	無	無	無	無	無	無	無
専門職	看護師・介護職	看護師・介護職	PT	健康運動指導士・NS	健康運動指導士・NS	健康運動指導士・NS	なし	インストラクター	インストラクター	SC
内容	1日	短時間	座位で行える運動	全身運動	全身運動	全身運動	ふまねっと	筋トレトレーニング室	筋トレ	体操、交流、趣味活動など

介護予防事業の整理について(具体案)

- ・筋トレマシンを使う「いきいき筋力向上教室」は、社会教育で行っているトレーニング事業に振り替えることはできないか検討する。
- ・まる元運動教室とアクティブライフフィットネス事業は、事業内容を整理し、専門職の介入する事業として一本化できるところはないか検討する。
- ・元気になって、自立した生活に戻ってもらうこと、教室を卒業できることを改めて意識して関わるようにする。



3回目の現地支援では、土幌町の中で住民主体で行っている活動を書き出すグループワークを行いました。介護・福祉分野の職員だけでなく、観光・労働分野、教育分野、住民の方にも再度参加をいただき全員で色々な活動を書き出しました。

「昔はもっと地域資源があったけど、、、」という意見もありましたが、まだまだ町には色々な活動がありましたし、町内会などの住民同士のつながり、支え合いもありました。

～私たちがこれからやっていく支援～

・専門職の介入は生活のほんの一部であり、「普段の生活」を取り戻してもらえる支援を意識しよう。

地区のサロン活動など、住民同士のつながりが、まだまだありますが、活動に参加されていない方々も居ることは、現実問題としてあります。そのような方々を含めて、地域づくりを行い、住み慣れた町で長く過ごしていただけるよう支援していきます。

・常設型の居場所を通じて新しい繋がりを作る支援をしていこう



生活支援コーディネーターを通して、マッチングを行い支え合うことができる関係性づくり。

☆貴重な機会をいただきありがとうございました☆

地域づくり加速化事業

美唄市生活支援体制整備事業担当

美唄市役所 地域包括ケア推進課 主任 高橋 大介
伊藤 真美

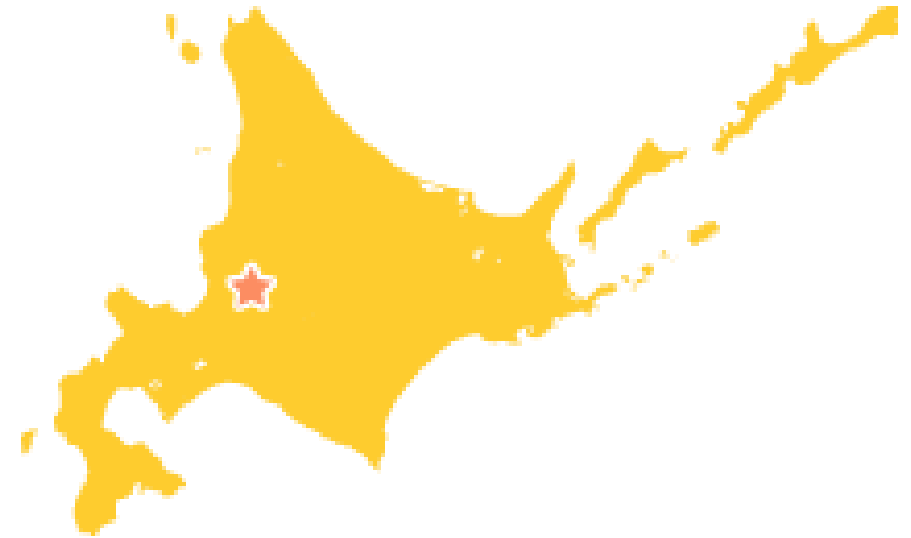
北海道美唄市



美しき唄のまち

び ばい
美唄市

BIBAI CITY



人口～19,097人（65歳以上人口 8,391人 高齢化率 43.9%）

市の特徴～札幌市と旭川市を結ぶ国道12号線を基本として市街地を形成。特別豪雪地帯に認定。冬季は総降雪量約10メートル。厳冬期の積雪量は約2メートルに及ぶ。

ゆるキャラ～マミィちゃん。

美唄市のこれまでの地域づくり

介護予防のための住民自主グループ活動「貯筋体操」

（活動開始）

平成16年から現在に至るまで自主的に活動を継続してきた。

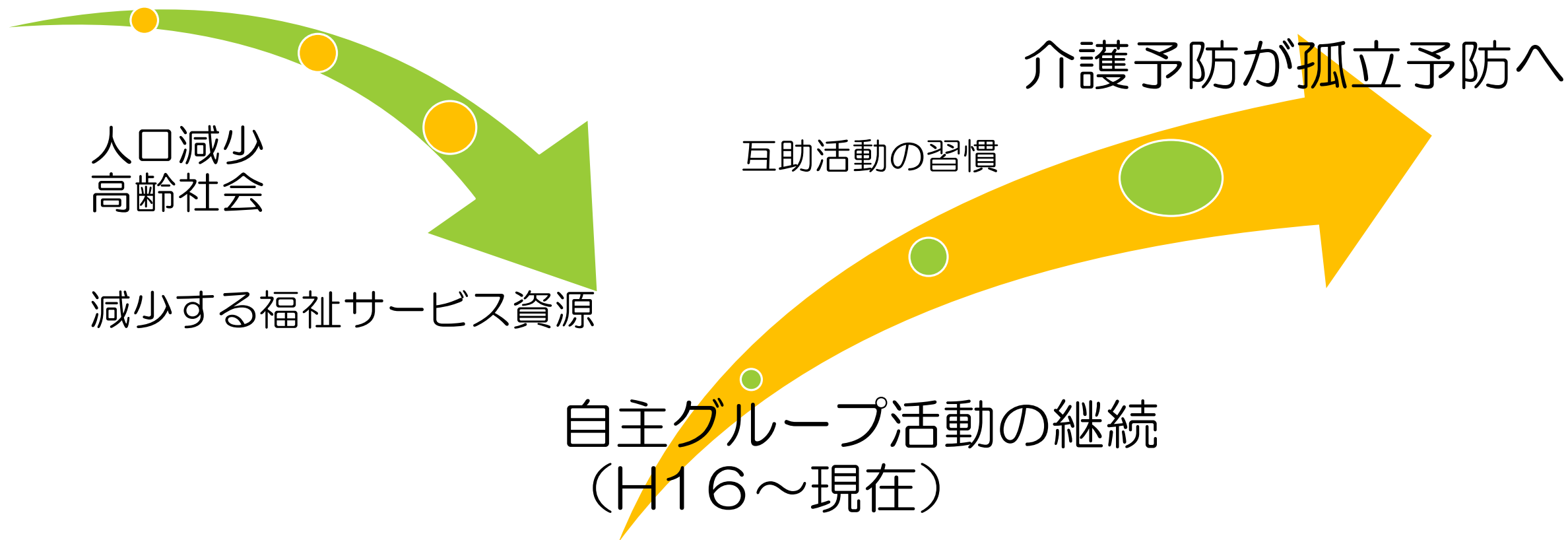
（活動内容）

貯筋体操は太極拳をベースにした約30分の有酸素運動。老人クラブや町内会等を中心にグループが出来、平成25年度は30グループ、1,028名の方々が活動していた。コロナ禍を経て**現在（R6.2月）は22グループ、366名**の方々が取り組みを継続中。貯筋体操の普及啓発にむけては、貯筋体操交流会を年1回実施し、活動していない地域の方々にも体験いただけるように工夫しています。

（効果）

1. 医療費、介護給付費を比較し、費用が抑制されているという効果が明らかになりました。
2. **介護予防の効果と、グループメンバー同士による助け合い活動など互助の関係を構築。**

人口減少 サービスの担い手減少・・・



美唄市生活支援体制整備事業5事業

項 目	
「住民主体組織の支援」 第1層協議体が把握できていない市内の集いの場、サロン等に赴き、課題検討できる有志ある住民を組織化する。	1. 市内集いの場（地域サロン運営の後方支援）
「支え合い手段の可視化」 生活便利帳の更新作業 匠ノートの作成 有志ボランティア会議運営	2. 生活便利帳の発行／有志ボランティア会議の運営
「移動手段の課題検討」 過疎地域、農村地域をはじめ高齢者の交通課題整理	3. 峰延モデル地区での住民移動手段の検討
「菜の花地区独居高齢者見守り運動の展開支援」 支え合いによる町内見守り活動できる人材の養成 サロン来訪者の新規開拓	4. 菜の花協議会及び菜の花サロン（住民主導型協議体機能＆通いの場）の取り組み
「協議体の運営」 協議体会議の事務局運営	5. 生活支援体制整備事業協議体の運営（1層協議体）

地域サロンの展開

2024年2月現在

市内 地域サロン（みんなのサロン） 7拠点

- ①菜の花サロン（東福社会館）～月1回水曜日 主な内容・・・次項以降で説明。
- ②ゆいサロン（有為団地集会所）～月1回木曜日 主な内容・・・おれんじカフェ（移動カフェ）にて住民参加。
- ③いなほ会（北福社会館）～月1回火曜日 主な内容・・・筋力向上から認知予防へ取り組み。
- ④東4条サロン（東4条福社会館）～月2回金曜日 主な内容・・・近所のサークル仲間で運営。カラオケや麻雀サークルの集い。
- ⑤峰延サロン（峰延福社会館）～月1回月曜日 主な内容・・・ふまねっと、ボッチャなど交流。地域独自での移動支援手段を模索中。
- ⑥南美唄サロン（南美唄福社会館）～月1回金曜日 主な内容・・・南美唄わくわくまつりという催し展開。体操、行政相談など開催。
- ⑦くりの木サロン（東明西福社会館）～月3回木曜日 主な内容・・・貯筋体操、物々交換会、脳トレ、講師を招き講演会の開催。

地域サロンの様子

峰延サロンの活動風景



地域サロンの様子

くりの木サロンの活動風景



サロン展開の先へ

「令和5年度 地域づくり加速化事業での最終目標」

⇒ **SCが自信をもち地域づくりできるよう支援したい**
（人材育成）

①これまで新たに7か所の地域サロンを展開してきたが・・・

⇒ **サロンありきではない地域づくりへ**

②これまで地域を支える立場で活動してきたが・・・

⇒ **地域の課題ばかり探す活動から地域を励ます活動へ**

③これまで地域を見守るスタンスで活動してきたが・・・

⇒ **住民と同じ目線で地域に入り込む活動へ**

みんなで支え合う地域づくりフォーラム

～ちょっと手伝える人の力で、あると助かる地域づくり～

みんなで支え合い、地域を変えよう

～私たちの地域は私たちの手で～



地域づくりの成功体験を生活支援コーディネーターに感じてもらいたい

*介護予防・日常生活支援総合事業にて平成29年に生活支援体制整備事業で実施した市民フォーラム（写真）

手応えのない市民フォーラムだったが・・・

全市的な規模でチラシを配布し、共に地域づくりを考えましょう！と開催した市民フォーラムであり、参加者の想定は150名程度を見込んでいたが・・・

結果 参加者34名

生活支援体制整備事業構築の初期であり手探りでのフォーラム開催となった

しかし、参加者の皆様は全員「有志」ある住民の皆様だった

菜の花サロンの経過

- H29開催の市民フォーラム参加者で立ち上げた市内初の地域サロン
- 2つの町内会が協働して住民主導型組織である「菜の花協議会」の設立。
- 菜の花協議会は平成29年開催の「市民フォーラム」へ参加した「有志」ある住民4名が発起人。
- 住民が考えた課題「暁地区町内で最後まで安心して生活するために何が必要か考える」の検討
- 平成30年10月から菜の花協議会主導型での「菜の花サロン」を運営開始。
- 町内会の合議にて会館使用料補助、その他運営に係る必要経費は自前で収支計算。
- 町内会、町内外の住民の参加を許可。誰もが気軽に集えることに注力。
- 菜の花サロンの活動内容などをまとめたチラシ（通信）を菜の花協議会で作成し毎月戸別配布。
- 新型コロナウイルス感染症拡大により一度は中止したが、再開後も現在に至るまで活動継続中。

菜の花協議会・菜の花サロンの活動内容

協議会地区5年後の地域を考えよう（グループワーク）	サロン自主運営（参加費100円、昼食提供200円）
災害図上訓練（DIG）	音楽療法士による合唱レク
認知症高齢者見守り声かけ模擬訓練	美唄の歴史映像鑑賞会
介護保険勉強会	サロンでの昼食の提供
菜の花通信の発行と配布	コミュニケーション技法勉強会
地域づくり補助金の申請（協議会として）	町内会以外の住民の受け入れ
地域福祉大会での実践報告	独居高齢者へのサロン参加声かけ活動
町内点検活動・避難訓練	貯筋体操、ボーリングなど介護予防運動
自主防災組織の立ち上げ	美唄市発行の地域包括ケア漫画のモデル化
毎月1回の協議会開催	月1回～2回のサロン開催

H29市民フォーラムがきっかけで

菜の花協議会&菜の花サロンの他にも

市民フォーラム参加者の「有志」ある住民の皆様が協働して

市民が気軽に見て便利に活用できる生活支援サービスをまとめた「生活便利帳」を作成

美唄市生活便利帳の発行

平成30年～初版作成から現在まで改訂を重ねる

美唄市生活便利帳作成のために集った有志ボランティアメンバー 10名



保存版

ぴば生活便利帳

《第2版 令和2年2月》

「ぴば生活便利帳」について

高齢社会に伴い、地域での支え合い・助け合いを目的に、年齢を重ねても住み慣れた地域で長く生活していただけるように、ちょっとした困った時に役立つ生活情報を集めました。

平成30年6月に冊子として発行したものを、第2版として再編集しました。

美唄市ホームページに掲載されています。

検索
「美唄市ホームページ」→「住民情報サイト」
→「組織から探す」→「高齢福祉のページへ」
→「ぴば生活便利帳」

～私たちにできる支え合い～ 見守り活動のポイント

- ① 新聞や郵便物がたまっている。
- ② 夜になっても電気がつかない、屋なのに電気がつかない。
- ③ カーテンが空いたまま又は閉まったまま。
- ④ ゴミが分別されていない、変な臭いがする。
- ⑤ 髪や服が乱れている。
- ⑥ 怒鳴り声が聞こえる。
- ⑦ 最近姿を見なくなった、外出の機会が減った。
- ⑧ 見知らぬ人がよく家を訪ねている、業者らしき人が出入りしている。

☆気になることがあったら・・・

美唄市地域包括支援センター(高齢福祉課) TEL 68-8297

☆緊急の場合はすぐに

警察 110 又は消防 119へ通報

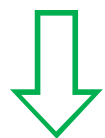
【編集】生活支援有志ボランティア

【問合せ】美唄市社会福祉協議会 TEL 62-0770

生活支援体制整備事業を業務委託

H30～生活支援体制整備事業を市社協へ業務委託開始

毎年の事業計画に沿って各事業を展開してきたが、S Cの活動内容に悩みが生じる



令和5年度 地域づくり加速化事業へ参加決定
これまで長年の課題であった茶志内地域開拓へ

令和5年

10月2日

美唄市の茶志内地域アセスメント

1回目支援日

1. 令和5年度美唄市生活支援体制整備事業報告
2. 第9期美唄市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（素案）報告
3. 地域づくり加速化事業にて伴走型支援を求める茶志内地域のアセスメント報告

地域の中でこれまで意識されず自然に存在して
きたようなナチュラルな資源一つ一つの強みや
大切さに目を向けていく



支援チームより
アドバイス

令和5年
12月22日

豪雪災害により日程の延期

2回目支援日

1. 茶志内地域での住民座談会の開催（延期）
2. 茶志内地域のお宝探し報告会（延期）
3. 茶志内地域住民の皆さんとグループワークにて地域づくりの木を描く（延期）

生活支援コーディネーターは人の声を拾う、住民側の人間になる、普段何気なくあるような繋がりに意味づけを行う、などの視点が必要。

生活支援コーディネーターは、住民の皆さんに困りごとが生じた時に、早めに相談できる人はどんな人が想像する。



支援チームより
アドバイス

令和6年

1月5日（金）

2. 25MTG/2. 5MTG

令和6年

2月9日（金）

（2. 25MTG要点）

1. 茶志内地域の住民は10年先にどんな風に暮らしていきたいか、どう暮らしたいか
2. 茶志内地域の皆さんがわかりやすいキャッチフレーズを一緒に地域へ浸透させる
3. 茶志内地域の中に既にある互助の関係性を捉える
4. お宝さがしのワークは、住民の声を聴いてそれを何につないでいくかが大切

（2. 5MTG要点）

1. 生活支援体制整備事業は、当事者（住民）の力を引き出すもの
2. 何度も足を運んで話を聞いてくれるコーディネーターは地域側の人間になっている
3. SCと一緒にやってくれるという伴走者にならないと、住民に力を発揮してもらえない
4. 知っているようで知らない、知っているようで誤解していることをお互い知り合う
5. 地域の中で知らない地域に気づくこと、これが地域資源のマッチングとなる



支援チームより
アドバイス

令和6年
3月11日

住民講座と座談会&振り返り

3回目支援日（予定）

1. 茶志内地域での住民座談会の開催（予定）
2. 茶志内地域のお宝探し報告会（予定）
3. 茶志内地域住民の皆さんとグループワークにて地域づくりの木を描く（予定）

2回目支援日が延期になり、市・社協が合同で茶志内地域の再アセスメントに注力できた。戸別訪問から一人ひとりの住民の生活を垣間見る時間が確保できた。茶志内地域の歴史から紐解き、これまでに住民の皆さんが経験してきた立場から理解を深められた。



支援チームより
アドバイス

地域づくり加速化事業での取り組み成果

- ・住民側からSOS（課題）が出ている地域（茶志内地域）のお困りごとを住民目線で考える。
- ・その地域の強みと弱みを整理し、課題解決のみ急ぐのではなく、お宝さがしを試みる。
- ・地域の歴史や文化から紐解き、地域の中での繋がりに意味づけを試みる。
- ・住民と共に地域を学び、地域の中で関係性を築いてみる。
- ・地域に出向き、共に考え寄り添うことの大切さを理解する。

「生活支援コーディネーターが地域で把握すべきこと」を理解する。
今回の経験を得て、生活支援コーディネーターが地域へお邪魔するノウハウを得る。

今回の経験を得たことで、他の地域でも実践可能となる

令和5年度地域づくり加速化事業 【北海道】



北海道保健福祉部福祉局
高齢者保健福祉課地域支援係

北海道の概要

➤ 人口

5,224,614人　うち高齢者数1,664,023人（R2時点）
（札幌市：1,973,989人　道内人口の37.8%）

➤ 高齢化率

31.8%（全国28.0%）　※75歳以上　16.2%（R2時点）

➤ 面積

83,454 km²（日本の国土の約22%）

➤ 平均自立期間（要介護2以上）（R4年度・KDBデータ）

男性79.6歳（全国80.1歳）

女性84.2歳（全国84.4歳）

➤ 平均寿命（R4年度・KDBデータ）

男性80.3歳（全国80.8歳）

女性86.8歳（全国87.0歳）

➤ 道内総生産の産業別構成比（R元年度）

第1次産業　3.9%（全国　1.0%）　第2次産業　17.4%（全国25.6%）

第3次産業　77.8%（全国72.5%）

【加速化事業に取り組む上での課題】

- ・ 地方部を主として、介護・医療人材の確保の困難さがあり、専門職を活用した地域における介護予防等の体制整備に困難さがある
- ・ 1次産業が主な地域は、高齢になっても就労的役割を持つ人が多く、住民主体の活動や担い手づくりが難しい部分がある

北海道における参加体制

○参加市町村

美唄市（エントリー型）

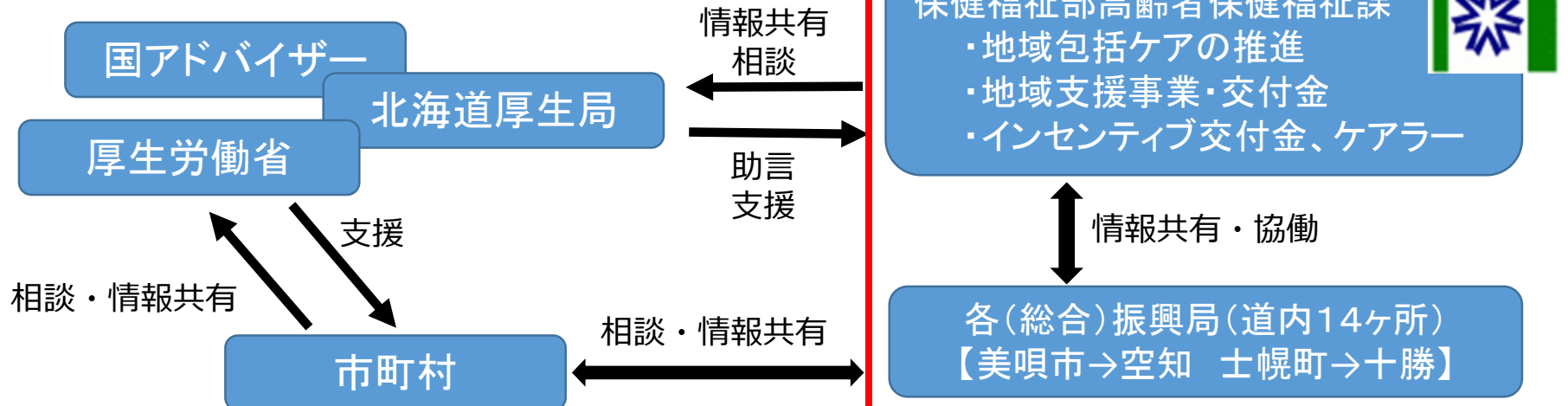
- 高齢者の社会的孤立を防止する地域の仕組みづくり
- 小地域単位ごとの課題整理や住民主体の地域づくり

士幌町（国プッシュ型）

- 事業所サービスに頼らない多様な担い手による活動・サービスづくり



○参加体制



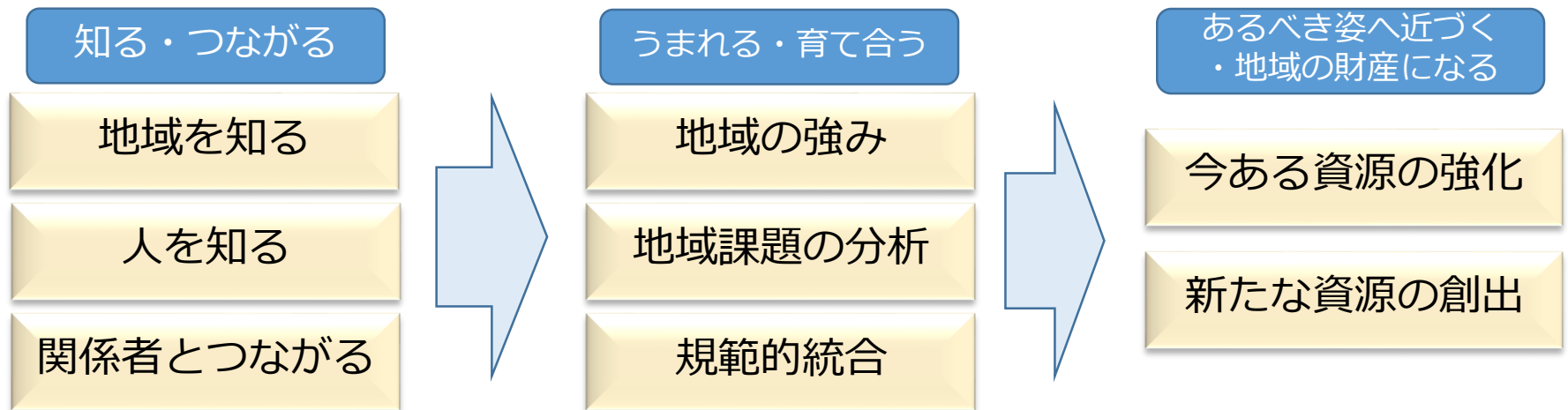
活動を通して得た気づき

- 自治体や地域には課題がたくさんある
- 地域や関係機関の人材不足などすぐに解決していくことが難しいこともある

日常業務にも追われる
日々・・・

山積する課題がある中で、取り組めることや考えていけることもあることを改めて実感

- ◆ 人や地域のつながり、活動拠点など強みとなることも地域にはある（視点や視野を広げて捉え直す）
 - ◆ 今あるもの、また埋もれている資源や人を見つける・発掘する
 - ◆ 地域資源の整理（可視化）などを通じて地域課題を明確にする
 - ◆ 介護予防等に資する地域の資源づくりをデザイン（ターゲティングや各事業・活動の連動性など）
- 【たとえば】
- ・住民の集まりへの参加や住民講演会等を開催して対話する
 - ・住民（代表）を会議等に参集し、意見交換する
 - ・保健医療福祉以外の関係者（生涯教育や産業振興等）や地域の専門職と情報交換する
 - ・地域の歴史や住民の文化・価値などから地域の強みを考えてみる



対等な立場での対話・同じ目線で考える

今 後 の 展 開

【本事業の横展開】

- 事業取組の展開プロセスや成果等を道内市町村へ周知
- 圏域市町村等を対象とした意見交換会の開催など

【市町村支援の充実】

- 市町村の現状把握・課題分析、適切なニーズ把握
- 市町村のニーズにあわせた支援の展開
- 様々な取組や他分野の活動にも視野・視点を拡大

AD、厚生局、厚労省等の皆さま、
引き続き本道へのご支援をお願いします

（担当者としての意識・態度）

- 一緒に考え、地域の住民・関係者目線で話し合う
- チームワークや連帯感を作っていくためにも情報共有する
- 市町村を支援する関係者とのつながりを増やす



R6.3.5
地域づくり加速化事業 報告会



令和5年度 地域づくり加速化事業について

- 伴走的支援：北海道美唄市、北海道士幌町
- 都道府県ブロック別研修（北海道ブロック）

厚生労働省
北海道厚生局 地域包括ケア推進課
長内 隆彦

伴走的支援について

専門的アドバイザー、北海道、厚労省（老健局・厚生局）が支援チームとなり、連携して各市町村への伴走的支援を実施。北海道厚生局としても過去の伴走支援の経験を活かしつつ、場面に応じた支援やバックアップを行いました。

美唄市（厚生局主導型）

○エントリー時の課題感（生活支援体制整備事業について）

- ・町内会活動などの自粛、停滞から課題検討の場が減少
- ・活動のコアメンバーの高齢化に伴う次世代への継承

・7/31 事前の顔合わせ(現地)

地域の活動状況は？

美唄市に訪問し、道庁＋振興局も交えて直接の顔合わせ。
✓ エントリーシートに記載がない想いも聞けた。

・10/2 現地支援 1回目

- ・アドバイザーが事前に市内の視察（茶志内地区）を行った上で、地域づくりに関する講話を実施。
- ・市内の「貯筋体操」グループを視察。
 - ✓ 元気に、自主的に活動している人もたくさんいることを再確認できた。

★茶志内地区を訪問して住民の方に地域のことを聞きつつ（＝アセスメント）2回目の支援では「住民講座」を！

・12/22 現地支援 2回目

大雪のため「住民講座」は延期に…
→その後再度、茶志内地区を訪問。
初回よりも深く話が聞けた。

・3/14 現地支援 3回目

改めて「住民講座」を企画中。住民のつながりを確認し、今後に繋がる会に！



士幌町（老健局主導型）

○交付金（介護予防・日常生活支援総合事業）の上限超過

- ・いまあるサービスを活かして、どのように身体機能を維持・向上させ、サービスから卒業していく流れを作るか。

・9/1 現地支援 1回目

改めて士幌町の現状と課題を整理

- ✓ 町社会福祉協議会の事業も含め、多様なサービスがあることを再認識

共生型・常設型の居場所（みんなのまのりのかみさん）という「資源」がある！

・12/21 現地支援 2回目

- ・「みんなのまのりのかみさん」を視察
 - ※生活支援コーディネーターが常駐、多世代が集う場所
 - ✓ 多様なイベントを開催、ボランティアもいる。
- ・地域住民（代表者）との懇談
 - ✓ フレイル（虚弱）に陥らないよう、どのようなタイミングで行政が介入すべきなのかについて意見交換
 - ➡住民間のつながりはある。過度な介入は必要としていない。

地域住民の情報も集まる

・2/8 現地支援 3回目

- ・シニア層が元気になることに寄与している地域資源を洗い出してみよう。
 - ✓ 他部署（教育・産業）や住民も加わり、たくさんの資源やつながりが！
 - ➡今後に向けて、資源の活用法や課題をグループワークで意見交換



都道府県ブロック別研修（北海道ブロック）について

【講演】「今、あるものからの地域づくり」

- ・ 伴走的支援の専門的アドバイザー（生活支援体制整備事業）による講演
- ・ 全国の市町村の事例から「住民が主役」で活動している事例を紹介
- ・ **「自発的で主体的な『支え合う暮らし』を見つけることから」**が、はじめの一步

【情報提供】経済産業省における介護分野の取組について

- ・ 経済産業省（ヘルスケア産業課）からの情報提供
- ・ 介護領域をめぐる主な課題（財政・経済・人材）に関し、経産省における対応の方向性について説明
- ・ **介護保険外サービスを活用した課題解決の事例などを紹介**

【事例発表＋意見交換】市町村の医療・介護連携に関する取組について

- ・ **北海道北見市**から：北見市医療・介護連携支援センターと連携し、事業を一体的に実施
- ・ **岩手県釜石市**から：在宅医療連携拠点「チームかまいし」の役割と取組
- ・ **石川県小松市**から：在宅医療・介護連携推進会議による課題の把握と市の取組

※事例発表いただいた3市の講師陣を交えた意見交換を実施